

<川崎市：時差通勤、公共交通への転換、マイカー相乗りの社会実験>

施策名	時差通勤，公共交通への転換，マイカー相乗りの社会実験
取り組みの背景	背景 1：川崎市東扇島・千鳥町は倉庫業，流通業，製造業など約 110 社，約 12,000 人が就業 背景 2：朝夕の通勤時間帯に国道 132 号が渋滞 背景 3：川崎市臨海部の大気汚染が深刻
地域の交通環境問題 行政・市民ニーズ 交通基盤シース など	
目的・ねらい	● 目的・ねらい：交通混雑の改善，道路沿道環境の改善 ● 対象交通：国道 132 号の塩浜交差点，夜光交差点を通過する通勤用マイカー
目的・ねらい 対象交通 など	
取り組みの経緯	（委員会経過） 平成 6 年 10 月 東扇島・千鳥地区交通環境改善連絡協議会第 1 回準備会開催 平成 7 年 3 月 東扇島・千鳥地区交通環境改善連絡協議会第 2 回準備会開催 平成 9 年 7 月 東扇島・千鳥地区交通環境改善連絡協議会の設立，社会実験実施 平成 10 年 4 月 東扇島で川崎市交通局がシャトルバス運行開始（無料） 平成 11 年 2 月 社会実験実施 （調査） 平成 8 年度 交通実態調査，事業所アンケート，時差通勤の可能性検討 平成 9 年度 社会実験実施（2 日間），説明会実施 平成 10 年度 社会実験実施（5 日間），講演会開催
主体・広報・費用	● 実施主体：東扇島・千鳥地区交通環境改善連絡協議会 ● 検討組織：東扇島・千鳥地区の 113 社，横浜国道工事事務所，関東運輸局，神奈川県警，神奈川県他行政機関 ● 広報：告知チラシ（A5 版 5000 枚），横断幕 2 枚，マスコミ各社 ● 費用負担：調査費用：公健協，事務局：川崎市
実施主体 検討組織 広報スケジュール 費用負担 など	

実施概要	●対象地域：川崎市臨海部（東扇島・千鳥地区）
対象地域 実施日時 施策内容 など	●実施日時：平成9年度～10年度 ●施策内容： 時差通勤，公共交通への転換，マイカー相乗りの社会実験 夕方に路線バスの上り便を3本増発
効果測定内容	●効果測定内容：交差点交通量調査，走行速度調査，環境調査，事業所・従業員アンケート調査
測定内容 効果把握 など	●効果把握結果： 実験への参加：5日間で延べ42事業所(1800人) 時差通勤：150～180人/日（内マイカー利用者120～135人/日） 公共交通への転換：85～115人/日 マイカーの相乗り：90～120人/日 通勤時間帯（7時～8時30分） 30～60台の乗用車減少，走行速度約10km向上，ピーク時台数10%減少
取組上の課題	課題1：交通問題の再認識と事業所の理解促進
合意形成 費用負担 など	課題2：時差通勤推進計画の検討 課題3：バス利用促進策の検討 課題4：隣接地域との整合性のある施策の検討
その他特記事項	東扇島・千鳥地区交通環境改善連絡協議会は，現在も存続し，活動を継続中。
今後の方向性 地域指定 等	

以上

都道府県市名：神奈川県川崎市
 担当部局名：環境局公害部自動車対策課